

平成16年11月14日(日)

第30回 越谷市民まつり

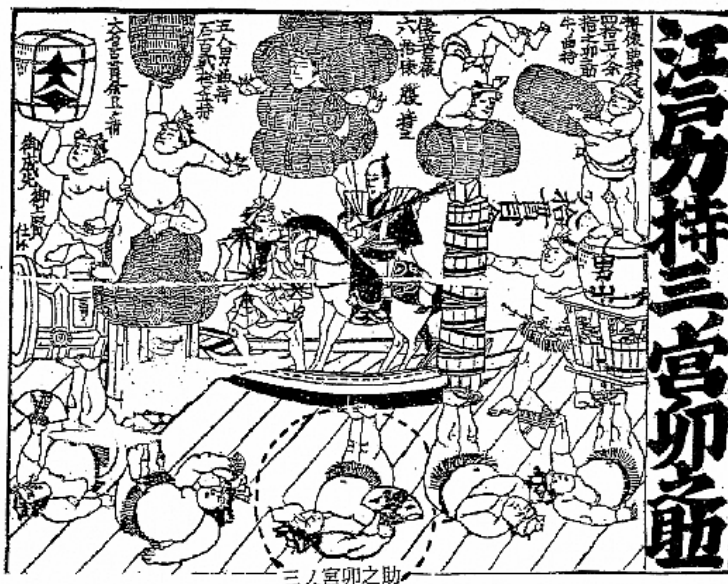
越谷市郷土研究会 展示出品紹介

於 越谷市中央市民会館

日本一の力持ち

三ノ宮卯之助

没後 150 年記念



さんのみや うのすけ ちからも こうぎょう ひきふだ
三ノ宮卯之助の力持ち興行の引札(広告)

昭和26年(1951)木版刷り(高崎 力蔵)

三ノ宮卯之助の力石

所在地	個数	備考
[1] 稲荷神社 (埼玉県桶川市寿)	1	桶川市指定文化
[2] 飯塚神社 (埼玉県岩槻市飯塚)	1	
[3] 神明神社 (埼玉県岩槻市釣上)	2	保存処置
[4] 香取稲荷神社 (埼玉県岩槻市新方須賀)	1	
[5] 三野宮神社 (埼玉県越谷市三野宮)	4	一個、所在不明
[6] 向佐宅 (埼玉県越谷市越ヶ谷)	1	
[7] 久伊豆神社 (埼玉県越谷市越ヶ谷)	1	保存処置
[8] 観音堂 (埼玉県越谷市瓦曾根)	1	所在不明
[9] 峯ヶ岡八幡神社 (埼玉県川口市峯)	1	
[10] 氷川神社 (埼玉県戸田市上戸田)	1	
[11] 八幡神社 (埼玉県春日部市粕壁東)	2	保存処置
[12] 大門神社 (埼玉県浦和市大門)	1	
[13] 琴平神社 (埼玉県久喜市太田袋)	1	
[14] 観蔵寺 (千葉県木更津市中里)	1	保存処置
[15] 北野神社 (東京都江戸川区北小岩)	2	
[16] 川崎大師平間寺 (神奈川県川崎市大師町)	1	保存処置
[17] 若宮八幡神社 (神奈川県川崎市大師駅前)	1	保存処置
[18] 山田神社 (神奈川県横浜市都筑区南山田)	1	保存処置
[19] 杉山神社 (神奈川県横浜市都筑区大熊町)	1	
[20] 諏訪神社 (神奈川県横浜市港北区綱島東)	4	保存処置
[21] 稲荷神社 (神奈川県鎌倉市雪ノ下)	2	保存処置
[22] 江の島神社 (神奈川県藤沢市江の島)	1	
[23] 稲積神社 (山梨県甲府市太田町)	1	保存処置
[24] 諏訪大社秋宮 (長野県下諏訪町)	1	
[25] 大阪天満宮 (大阪府北区天神橋)	1	
[26] 魚吹八幡神社 (兵庫県姫路市網干区宮内)	2	
総計	37個	

文化 四年(一八〇七) 卯之助岩槻領三野宮村(現越谷市三野宮)に生まれる。
 文政 八年(一八二五) 正月 卯之助(18歳) 肥田文八(岩槻・長富村)と久喜市太田袋諏訪神社にて力石五十貫を持つ。
 文政 十年(一八二九) 三月 卯之助(22歳) 本郷小島久蔵と越谷市瓦曾根観蔵院で力石七十貫余を持つ。
 文政 十三年(一八三〇) 三月 卯之助(23歳) 本郷久蔵と岩槻・鉤上神明社で「雲龍石」等を持つ。
 十月 卯之助・本郷久蔵と江戸下町で力石五十貫余を持つ。
 (現在 千葉木更津・観蔵寺が保存)
 天保 二年(一八三一) 四月 卯之助(24歳) 越ヶ谷久伊豆神社で五十貫余を持つ。
 四月 卯之助・大木戸仙太郎と横浜市港北区綱島諏訪神社で飯田石・池谷石を
 持つ。
 天保 三年(一八三二) 二月 卯之助(25歳) 春日部・東八幡神社にて力石百貫と六拾貫持つ。
 天保 四年(一八三三) 六月 卯之助(26歳) 一座は江戸深川八幡宮境内において徳川第十一代将軍家斉御上覧力持の栄
 を受ける。
 天保 七年(一八三六) 六月 卯之助(29歳) 江戸力持番付で西の関脇となる。
 天保 九年(一八三八) 四月 卯之助(31歳) 長野諏訪大社秋宮にて七十貫を持つ。
 天保 十一年(一八四〇) 二月 卯之助(34歳) 大阪市天満宮にて大盤石足指。
 天保 十二年(一八四一) 三月 卯之助(35歳) 越谷三野宮神社で大盤石等を持つ。
 嘉永 二年(一八四九) 六月 卯之助(42歳) 江戸力持番付で東の大関となる。
 卯之助(42歳) 越谷三野宮神社で白龍石を持つ。
 嘉永 五年(一八五三) 卯之助(45歳) 山梨・甲府・稲積神社で百貫を持つ。
 嘉永 七年(一八五五) 七月八日 卯之助(47歳) 埼玉・桶川・寺稲荷神社で大盤石を持つ。
 (四十八歳…数え年)



久伊豆神社の卯之助力石

山口美津江

三ノ宮卯之助は、木更津市観蔵寺にある卯之助力石の刻字より判断すると、文政十三年（一八三〇）七月、江戸力持の仲間に迎えられて、ようやく一人前の力士として世間に知られるようになったと思われる。

翌年の天保二年（一八三一）四月に、越谷市越ヶ谷の久伊豆神社にて奉納力持の興行を行った。この催しを仕切ったのは、越ヶ谷本町の会田権四郎で、越谷地方開発の会田一族の一人である。この時の様子を伝える資料は、大正十二年九月一日の関東大震災により社務所、神楽殿共、一瞬にして崩壊し、後始末が半年後になるなどして貴重な社室や古文書類と共に失われてしまった。「卯之助力石」は、拝殿右側に二間四方の生け垣があり、その中央に高さ一メートルの台座上にご神体として祀られている。

「奉納 五十貫目 天保二年辛卯年四月吉日 三ノ宮卯之助持之 本町 會田権四郎」この力石は、見る人に驚きと疑問を感じさせる。一つの力石の為に占有地があり、正面入口には一对の石燈籠がある。台座上に力石が祀られ、注連縄が巻かれている。さらに驚くことは、秋の例大祭に於いて、神官は先ず「卯之助力石」の前に進み、祝詞をあげ、力石の裏の櫛に神の降臨を願い、祭礼の無事成功を祈ると聞いている。いわれについては、つまびらかでないという。

高崎力氏は、「察するに卯之助が江戸力持としてデビューし、郷土においても人気上昇し、いわば凱旋興行のような接遇ではなかったろうか。したがって多くの観衆が集まり、それなりの奉納金が集まり、神社にとっては過去に類をみない収益をあげたためではなからうか。」としている。

越谷において日本一のタイトルは他にあるのだろうか？ 江戸時代後期に活躍した郷土越谷が誇る日本一の三ノ宮卯之助、全身金盃で石を持ち上げる時の形相が「力石」を見る度に目に浮かぶ。

※平成十六年八月二十九日（日）の「日本一の江戸力持 三ノ宮卯之助の生涯」（NPO

法人・越谷市郷土研究会常任理事の高崎力）の講演会資料を参照し、多くを引用しました。

三野宮神社の卯之助力石

磯谷公知子

一、日本一となった三ノ宮卯之助の燦然期

嘉永年間（一八五〇頃）になると、江戸市中における卯之助の評判も高まり、川崎弥五郎の馬一頭を板に乗せての曲差しと共に、卯之助の小舟に牛一頭を乗せての曲差しが評判になる。これに負けじと大碇梅吉は、人を乗せた二頭の馬を舟に入れ、頭上高く差し上げて見物人を驚かせた。

また、嘉永元年六月十二日、卯之助は、江戸力持番付で念願の東方大関となる。当時は、横綱制度は無く、大関が最高位であった。その時の番付表によると、東の大関として「江戸・三ノ宮 卯之助」と記載されている。さらに、新たに三ノ宮久太郎が東方前頭筆頭として掲載されている。卯之助後継者の誕生である。この嘉永元年の力持番付表には、江戸、京、名古屋、大津、兵庫、堺、松阪といった全国の力持力士が掲載されているので、卯之助の大関は、江戸近郊のみならず、全国的なものであって、卯之助は日本一の力持ちといえる。

二、故郷に錦を飾って奉納した三野宮神社の力石

嘉永元年（一八四八）三月、卯之助（四十一歳）は、故郷に帰り、生家近くの三野宮神社（当時は、「香取神社」）で次の力石を持ち上げている。

①大盛石 「奉納 大盛石 嘉永元年□□（三月） 足而□□（差之） 三之宮卯之助」

これは、足で差したと思われる。

②三王石 「奉納 三王石 嘉永元年三月持之 三ノ宮卯之助」

③指石 「指石 三ノ宮卯之助 嘉永元年」（現在、所在不明）

指石とは、両手で持ち上げて頭の上まで両手で、時には片手で差し上げるための石。一度に三個の石を指すことは少なく、彼の故郷への凱旋興行がいかにか華々しかったかを物語っている。翌年、白龍石を奉納している。

④白龍石 「奉納 白龍石 嘉永二年 三ノ宮卯之助持之」

「白龍石」の語源は、天帝の使者とか貴人が微行（身分の高い人のお忍び）するという意味、「大盛石」は、揺るぎない大きな石、「三王石」の三王とは、中国の王で、夏の禹王、殷の湯王、周の武王（または文王）を指す。

卯之助の力石を通して、百五十年前の江戸時代の庶民の生活や娯楽をかいま見ることができ、歴史のロマンをしみじみと感じる。地元越谷に日本一の人がいたことは大いに誇りであり、多くの子供たちに知ってもらい、さらに後世に伝えていっていただきたい願う。

※平成十六年八月二十九日（日）の「日本一の江戸力持 三ノ宮卯之助の生涯」（NPO

法人越谷市郷土研究会常任理事の高崎力）の講演会資料を参照し、多くを引用しました。



久伊豆神社の
卯之助の力石



三野宮神社の
卯之助の力石

三王石

大盤石

白龍石



三ノ宮卯之助の片手留
(江戸時代の興行引札より)



亀次郎石ざしの図
(国安画・江戸時代)



足ざしの図
(沢田重隆画)

高島慎助氏の「力石と力持ち」『全国之力石研究』より引用



大関
三ノ宮 卯之助

三ノ宮卯之助の力持ち番付

高崎 力

山梨県立図書館蔵



越谷市郷土研究会に入ってみませんか！

NPO法人・越谷市郷土研究会の紹介

(平成16年10月現在)

- ◎史跡めぐりなどのイベントを毎月実施し、また、毎年、越谷市民まつり・越谷市民文化祭・こしがや文化芸術祭に展示部門で参加しております。
- ◎当会は、昭和40年(1965)3月に発足しました。以後地道に活動し、現在は会員数が340名程の大所帯となりました。ほぼ毎月行われる史跡めぐりは10月で333回を数えるまでになりました。
- ◎平成16年1月24日に『NPO法人・越谷市郷土研究会』の設立総会を開き、5月27日に法人格を取得し、正式に発足しました。
- ◎当会の今年の主なイベントをあげますと次のとおりです。
 - 平成16年1月3日(土) 恒例の七福神めぐり(深川方面)
 - 平成16年1月25日(日) 講演会「下間久里の獅子舞」
 - 平成16年2月29日(日) 江ノ島方面(江ノ島神社、七里ヶ浜、卯之助力石)
 - 平成16年3月25日(木) 古河方面(隠見泉石記念館、桃祭り、渡瀬遊水池)
 - 平成16年3月28日(日) 市内・大袋地区の史跡めぐり
 - 平成16年4月13日(火) 越谷鴨場見学
 - 平成16年4月24日(土) 最後の水戸藩主・徳川昭武の邸と庭
 - 平成16年5月30日(日) ベリー来航150年・日露戦争100年
 - 平成16年6月20日(日) 埼玉県立民俗文化センターの公演・団体鑑賞
 - 平成16年7月16日(金) バス史跡巡り・卯之助力石を横浜川崎に訪ねる
 - 平成16年8月29日(日) 記念講演会「日本一の江戸力持、三ノ宮卯之助」主催は、越谷市教育委員会とNPO法人越谷市郷土研究会、後援は越谷市文化課
平成16年10月24日(日)第333回史跡めぐり(足利方面)
- ◎郷土研究会ニュース「りせ」の発行
- ◎会報『古志賀谷』の隔年の発行(B5版、百十~百五十頁程度)及び無料配布
内容は主に会員による郷土の調査・研究の報告や随想の寄稿文などです。
- ※なお、以上の他に、越谷市社会福祉協議会への寄付活動なども行ってきました。

郷土研究会にお入りになるには

- ◎会費は、年間2千円(4月~翌年3月、会報・諸案内状・諸会議費等)です。どなたでも気楽に入会できます。市外の方でも歓迎致します。
- ◎申し込みは、はがきに「平成何年度より入会」とお書きのうえ、住所・氏名・電話番号をご記入し、下記までお寄せ下さい。
または、当会の各種行事の際に、郷土研究会役員までお申し込み下さい。

☎343-0806 越谷市 宮本町 3-117-8 谷岡隆夫方
NPO法人・越谷市郷土研究会
☎048-962-7527